

□第7期 第3回 外国人市民会議のまとめ

〔日時〕平成30年(2018年)6月6日(水曜) 午後7時から9時

〔会場〕市役所 第二庁舎 3階 大会議室

〔出席者〕

委員:

・片山 フィオナ

・畢 徹

・金 喆鎬

・劉 国相

・TAKADA DARIN RATTAGAN

・LEVEQUE MARC

事務局: 人権政策課

〔傍聴者数〕3人

〔案件〕

1. 前回(第2回) 会議の確認

→ 事務局より 資料1 「第7期 第2回 外国人市民会議のまとめ」について説明

2. ふだんの行政情報について

→ 事務局より 資料2 「ふだんの行政情報をどこで手に入れてるか」について説明

《 意見 》

○住民票、住民登録

・市役所に直接行って手続きしている。細かい情報は、市役所に行って聞くのが一番はよい。

・初めて日本に来た人は、どこへ行けば住民登録できるのか知らない。どこへ行けばいいのか、何を携って行けばいいのか、そういった情報がほしい。

・会社や学校でも情報はもらえる。インターネットでも調べることができる。だから、そんなに問題視しなくてもいいと思う。

・コンビニで住民票がもらえることを知らない人が多い。

・とよなか国際交流センターがもっといろんな方面でサポートしてくれたらいいと思う。

○国民健康保険、年金

- ・長く住んでいても、保険や年金の種類、違いがよくわからない。
- ・日本人の知り合いに聞いたり、手続きをしてもらおうことが多い。日本人の配偶者がいる人は、手続きを任せてしまうので、知らない人が多い。
- ・日本から自分の国に帰るとき、払っていた年金はどうなるのか。また、その相談はどこでたらいいのか。
→事務局より 在留延長をする時に、入国管理局や法務局から説明があるはず。
- ・国流や市役所に行って相談する。

○子育て・教育

- ・地域の人に聞いて国流の「おやこでにほんご」に参加したり、情報を集めた。
- ・予防接種のタイミングを逃してしまった。市役所や保健所などから情報を定期的にもらいたい。
- ・どの病院を受診したらいいか、どこの学校を受験したらいいかの情報は、行政ではなく国流で対応できるようにしたらどうか。
- ・早いうちから、受験の情報など知っておきたい。日本人や長く住んでいる外国人から地域の情報を聞いたり、高校の偏差値や、市立と公立の違いなどの説明を受けられる機会があればいいと思う。
- ・「先生」という言葉に「学校の先生」と「お医者さん」の二つの意味があるから誤解を生んでしまう。

○その他

- ・AIの機械が質問に答えてくれるシステムを使うといい。AIが普及していけば、近い将来には簡単に情報をシェアできるようになると思う。
- ・国や言語でチャットグループがあれば、そこでお互いに情報をシェアできるようになると思う。
- ・ニューズレターのメールマガジンや、「とよなかしのおしらせ」など、市のアプローチを増やしてほしい。

3. 災害時の情報について

→事務局より説明

・震度6弱の地震で、災害の起きた時間（朝、昼、夜）や、季節（春、熱、秋、冬）の

状況を想定して

(1) 困ること、問題となること

(2) 必要なもの、必要なこと

(3) 大事だと思ふこと

(4) 市にしてもらいたいこと

について、①地震がくるとき、②地震のあと それぞれ考える。

(1) 困ること、問題となること

①地震がくるとき

- ・出かけているときや、大きな地震が起きたとき、どうしたらいいのか、どこへ逃げたいのかかわからない。
- ・家族と離れているときの連絡や、自分の国の家族への連絡はどうしたらいいのか。
- ・外国人は地震があったときに、自分の身を守る意識が低かったり、知識が無かったりする。
- ・長く住んでいると、多少の揺れなら大丈夫だと思ってしまう。
- ・水がなくなる、トイレにいけないのが困る。
- ・緊急地震速報は便利だが、携帯電話を持っていない人はどうしたらいいのか。
- ・家の中で一番安全な場所はどこか。トイレや、風呂か。

②地震のあと

- ・地震のとき、何が 필요한のか、必要なものをどこで買えばいいのかかわからない人がいると思ふ。
- ・地震に対する住宅の保険の手続きはどうしたらいいのか。マンションに住んでいると管理会社から入ってくださいと言われるが、一軒家に住んでいる人はどうしたら入れるのか。

- ・自治会にはどうしたら入れるのか。

(2) 必要なもの、必要なこと

①地震がくるとき

- ・避難所の書いてある地図。
- ・安否を確認できるシステムがなかったか。
→事務局より NTT の電話のサービスにあるが、自分の国に連絡できるものではない。
- ・お風呂に水をためている知り合いがいる。
- ・学校の体育館に逃げれば、消防が水などを持ってきてくれると聞いて安心している。
- ・ガラス張りのビルは地震が起きたらガラスが割れて落ちてくるかもしれない。そのような危険な目に合わないための知識を発信することが必要。

②地震のあと

- ・前回の会議で DVD を見てから、自分で調べて必要なものを買そろえた。
- ・災害時に、無料で飲み物を配る自動販売機がある。
- ・働いているところでは、米や水を三日分多く置いている。
- ・住んでいるマンションは、住んでいる人みんなが飲める量のペットボトルの水を置いている。
- ・心のケアが必要。
- ・場所によって、地震の訓練をあまりしていないらしい。毎年地震の訓練はしたほうがいい。

(3) 大事だと思うこと

①地震がくるとき

- ・地震について自分たちで調べること、家族で話し合うことが大切。
- ・災害時に、隣に住んでいる人や、周りの日本人のまねをしたらいいと思う。
- ・地震が起こってすぐには逃げないほうがいい。

- 日本の滞在が短い外国人と、日本に長く住んでいる外国人は分けて考えたほうがいいと思う。長く住んでいる人は、日本人と同じ知識を持っている。日本にいるのが短い人は、知らないことが多くてびっくりすると思う。

②地震のあと

- 隣の家の人と仲良くしておくことで、情報を教えてもらったり、食べ物や水を分けってもらったり、助けてもらえる。
- 最近では古い建物の耐震工事が進んでいる。
- 同じ言語のコミュニティなど、外国人が情報共有できる場所があればいいと思う。
- 行政に頼るのみではなく、日本に長く住むのであれば日本人と同じように生活できる力や知識を身に付けていくべきだと思う。

(4) 市にしてもらいたいこと

- 防災マップの他言語版があったらいい。
- 携帯電話を持っていなくても大丈夫なように、外でも緊急アラームが鳴るようにすればいいと思う。
- 必需品や、重要なポイントをまとめたパンフレットのようなものがほしい。

• 事務局より

- 資料として配った「わが家の防災マップ」に災害時の必需品について書いてある。
- 外国人向けの防災イベントを企画している。内容、日時が決まったらお知らせする。

4. その他

- 事務局より、次回の会議は9月ごろ開催の予定